

20019

心カテ台で使用する離被架の考案

<sup>1</sup>東邦大学医療センター大森病院

佐藤 久江<sup>1</sup>、我妻 賢司<sup>1</sup>

当院では心カテ室において、成人及び小児の診断カテーテル、インターベンション治療、アブレーションに加え、ペースメーカーやI CDの植え込みを行っており、使用目的が多岐にわたる。対象患者も新生児から高齢者まで幅広く、一つの検査台で全ての対象の検査、治療に対応するために種々の工夫をする必要がある。手技中、手技後における患者の安全、安楽を確保すべく、これまでも経橈骨動脈アプローチによるカテーテル検査・治療時の手首枕や止血バンドの改良などを行い報告してきた。一方、当院では手術室で行っていたペースメーカーやI CD植え込みを2010年6月より心カテ室で行うようになった。従来、これら植え込み手術の際、患者の顔面はオイフで覆われてしまい、患者自身の不快感はもとより、患者観察にも不便であった。今回、それらの問題を解決すべく、清潔な術野を保ち、患者の顔面にオイフが接触せず、患者観察も容易にでき、医師の手技にも支障が少ないような離被架を考案したので報告する。